

1 「本当の豊かさ」とは何かを考えたい

私には戦争体験はありませんが、その後の生活を記憶していることを忘れないうちに書いておくことも必要に思われて提出します。

戦争中は、中央区の沼垂に居住していました。幻覚げんかくのような淡い記憶あわ きおくですが、空襲警報くうしゅうけいほうのサイレンになると、電灯を消して飛行機の音が聞こえなくなると点灯していました。

疎開そかい（注1）した際に、現在の阿賀野市の田園でんえんに巨大なすり鉢状ばちじょうの穴が見え、米軍機が落ちた爆弾破裂はれつ あとの跡であることを知りました。

その他に出兵兵士の見送りと、提灯行列ちようちんぎょうれつや消火訓練などや、大きな子供達が進駐軍（注2）のジープを囲んで何か貰もらっている光景や部屋の隅すみに、配布された防毒マスクぼうどくが置いてあった光景を覚えています。

食料品は、配給はいきゅう（注3）が多く、麦やさつま芋いもご飯が普通でしたが、特に不足した記憶はありません。現在は、葉のついた大根やニンジンしょうりょうは売っていませんが、当時は大切な食糧しょくりょうでした。里芋くきの茎も味噌汁かんそうや乾燥して保存食としました。さつま芋いもは「たいほく」が赤くておいしく、「おきなわ」はまずかったことを記憶しています。米穀通帳べいこく（注4）がないと米が買えなかった時代がかなり長かったと思います。

野菜と魚は、現在より安くて大量にあり、大

（注1）疎開

災害や空襲に備えて、都会の人や物資・工場などを他の地に移すこと。

（注2）進駐軍

第二次大戦後、日本に進駐した連合国の軍隊。

（注3）配給

統制経済の下で、不足しがちな物資の流通を統制し、特定の機関を通じて一定量ずつ売ること。第二次大戦の戦中・戦後に行われました。

（注4）米穀通帳

第二次大戦中から戦後にかけて、政府が米穀統制のために各世帯に配った通帳。

根やニンジンとごぼうは土中に埋め、また白菜・キャベツ・長ネギ・玉ねぎ・ジャガイモなどを大量に越冬野菜として屋内に保存しました。魚は魚屋から「ぶり」を1匹または半身ずつ買い、にしんは数の子だけ取って捨てたこともあります。

それでも、終戦直後に大人が「赤（犬）がうまい」と話しているのを聞き、食料は厳しかったようです。そして鳥屋野湯で獲った雷魚とカラス貝やタニシを食べたことを覚えています。

小学校は紙のランドセルと履物はゲタで、歯がすり減ると接着剤で付け替えて履き続け、運動靴はなく、全員がはだしでした。

給食の脱脂粉乳（注5）は、あまりおいしくありませんでしたが、休んだ人のこっぺぱんは、近くの人が届け、「鳥目」（注6）と「脚気」（注7）の話があり、全員に臭い肝油（注8）が支給されましたし、また当時の野菜は糞尿を肥料に栽培していましたので、検便の結果で「虫下し」（注9）を飲まされる子も多くいました。

そして砂糖がないので、人工甘味料の「ズルチン」や「サッカリン」が使用された粉末ジュースや玉子に水で溶いて混ぜると玉子風になる黄色い粉（注10）もありました。

衣類は、丈の長い物を購入し、最初は「上げ」をして着て、成長すると「上げ」をおろし、穴が開くと修繕し、次々に兄弟や親類に引き継がれました。

住居は、ノミ（注11）やシラミ（注12）が多く、

（注5）脱脂粉乳
脱脂乳から作った粉乳。各種乳製品や菓子類の原料。

（注6）鳥目
夜盲症（やもうしょう）の俗称。網膜にある桿状体の働きが低下したため、薄暗くなると物が見えにくくなる状態。先天性の網膜疾患、後天性のビタミン A 欠乏によるものなどがあります。

（注7）脚気
ビタミン B₁ 欠乏による栄養失調症の一。末梢神経が冒されて、足がしびれたり、むくんだりします。

（注8）肝油
タラやサメなどの新鮮な肝臓から得た脂肪油。黄色で透明。ビタミン A・D を多量に含む。夜盲症や発育期などの栄養補給に用いました。
塚野さんのお話では、ビタミンの補助として支給されていたとのこと。魚のあぶらでまずかったとのこと。あまりに評判が悪いので、後からゼリーのような形にして甘くして食べさせる方法に変わっていったとのことです。

（注9）虫下し
駆虫薬。主として腸内寄生虫を駆除する薬剤。

（注10）黄色い粉末
塚野さんのお話では、卵が貴重だったため、1つの卵の中に、黄色い粉を水で溶いて入れ、卵焼きを作ると、量が増えたように仕上げられたとのこと。
子供が2人とかいた家庭では助かっていたとのこと。
黄色い粉末は、乾物屋で袋に入れて売っていたとのこと。

寝る前に布団にDDT（注13）やBHC（注14）を散布し、蚊とハエも多く蚊帳（注15）は必需品でした。うちわで扇いで、蚊を追い払ってから素早く蚊帳の中に入るが、入ると外からうるさいほど音が聞こえました。

燃料は、薪から炭やコークス（注16）・練炭・炭団（注17）・コーライトが使用されました。

このように終戦直後は、快適な生活ではありませんでしたが、子供だったせいかもしれません。が大変だったという思い出はありません。

昭和50年頃までは、自転車を自動車のよう
に大切に磨いていたのに、現在は街に放置自転車があふれています。

戦争は戦闘だけではないし、生活の向上は便利さだけではないので、戦後の暮らしぶりも記録して「ケータイ」や「スマホ」時代に、本当の「豊かさ」とは何かを考えることも有意義だと思います。

（注11）ノミ
ノミ目に属する昆虫の総称。体長1～3ミリメートルで、左右に扁平で褐色。はねをもたず、後肢は発達してよくはねます。吸血性で、哺乳類や鳥類に寄生するほか、ネズミからペスト・発疹熱を媒介する種類もいます。世界に約2000種が知られています。

（注12）シラミ
シラミ目の昆虫の総称。体長1～4ミリメートル。長楕円形、扁平で羽がありません。哺乳類に外部寄生して吸血します。人間に寄生するものに、ヒトシラミとケシラミがあり、ヒトシラミはアタマジラミとコロモシラミに分けられます。いずれも吸血して激しいかゆみを与え、発疹チフス・回帰熱などの感染症を媒介します。

（注13）DDT
第2次大戦後から各国で害虫駆除に広く使われましたが、最終的に人体に蓄積されて残留毒性が持続するため、日本では1971年から使用が禁止されています。

（注14）BHC
殺虫剤として用いられたが、蓄積性があるため、現在では使用・製造とも禁止。

（注15）蚊帳
蚊を防ぐために寝床を覆う寝具。目の粗い麻・木綿などの布で作られ、四隅をつって覆って使用。

（注16）コークス
石炭を高温で乾留して揮発分を除いた灰黒色・多孔質の固体。発熱量が大きく、燃料として重要。

（注17）炭団
木炭や石炭の粉を布海苔（ふのり）でボール状に固めた燃料。